

K a n a s u g i A k i n o b u

# 金杉明信氏

財団法人インターネット協会理事長( NEC 社長 )



平成17年度から財団法人インターネット協会(IAJapan)の新理事長に就任されたNEC社長の金杉明信氏に、今後のインターネットと協会の役割についてお聞きした。

まず、IT企業のビッグカンパニーを率いてこられた立場から、インターネットをどう捉えていらっしゃるかを教えてください。

NECはIT、通信、半導体の3つをコア事業にしていますが、インターネットはそれらの事業の構造、産業構造を含め、根底から大きな変革を与えた技術革新だと考えています。

私はコンピュータ事業出身なので、初期段階はインターネットのインパクトを真剣に考えていなかったですし、通信事業の領域においてもそのインパクトは計り知れないものがありました。その普及のスピードは予想より速く、世界的に1つのスタンダードを生み出したと思えますね。

特に、インターネットによって流通している情報量が爆発的に伸び、それがさらに大きな技術革新を生んできていると思います。たとえば、ストレージの出荷容量は10年で1000倍、コンピュータの処理能力も10年で400倍、ネットワークの帯域も10年で1000倍といった進化を遂げました。この進化を追い越すほどの速度

で情報の爆発的増大、氾濫が起きています。たとえば世界のウェブ総数がこの10年間で1000倍になったということであり、同時に本当に欲しい情報が埋没する、迷惑メールなどが急増するといった課題も顕在化してきています。この傾向はこれからますます拍車がかかるのではないかと考えています。

### 20年かかっても真に融合しなかった“C&C”を、ここ数年のインターネットが実現させた

インターネットによって既存の産業構造に痛みが走った部分もあると思います。そうした変革に対してどのような心構えでやっていけばいいのでしょうか？

たとえば、ITとネットワークのコンバージェンス( convergence )、つまり融合ということを前向きに捉えて、どのように事業の構造なり業態を変革していくか、そしてコラボレーションによって新しい成長を促し、そこから産業構造をいかに変えていくかということだと思います。

コンピュータの場合はどちらかという

と、いまのインターネットに近いベストエフォートが許されたのですが、電話のような通信の世界は確率というのは許されません。確実な伝達が必要だという、いわば文化の違いですね。

当社名誉会長であった小林宏治氏は、C&C( Computer & Communications )という概念をいち早く作ったのですが、20年かかっても真の融合はできませんでした。ところがこの数年、加速度的にIT事業とネットワーク事業が現場レベルにおいて融合してきたと感じています。インターネットの普及によって結果的に技術が同質化してきたことや、インターネットが通信の世界においてメジャーなプラットフォームとなってきたことが後押しをして、2000年以降のここ数年で、ITとネットワーク事業のコンバージェンスが加速してきたのではないだろうか。そして、それを支えたのはソフトウェアという存在だと思います。

レガシーな通信の世界では、ソフトウェアの役割は少なかったのですが、いまのIPネットの普及やブロードバンド化、モバイル化の流れにおいて重要なのはソフトウェア技術です。そういったことも

## インターネット協会 新理事長に聞く これからのインターネットとIAJapanの役割

i n t e r v i e w

金杉 明信 理事長

聞き手 本誌編集長

Photo: 渡 徳博

本稿は、インターネット協会会報誌「IAJapan Review」のために行ったインタビューを再構成して掲載しました。



あって、ITとネットワークのコンバージェンスが進んできました。さらに同じことが通信と放送のコンバージェンスや固定と移動のコンバージェンスで起きることでしょう。インターネットが1つのドライビングフォースとしての大きな役割を果たすと思っています。

コンバージェンスが起こってきたのはベストエフォートという考え方が浸透してきたということでしょうか？

いいえ、そうではありません。コンバージェンスを引き起こしたのは、やはり技術の同質性やソフトウェアだと思います。むしろ、ミッションクリティカルなシステムにもIPネットが利用されるようになってくると、ベストエフォートという考えはなかなか許されなくなるのではないかと思います。

### ネット社会への啓発・教育について、当協会の役割が非常に大きい

私はIT戦略本部の下部機構である情報セキュリティ基本問題委員会の委員長をしていまして、慶応大学の村井純先生や早稲田大学の後藤滋樹先生と共に半年間施策を検討してきました。情報セキュリティというものを安全保障という視点で考えなくてはならないほど、インターネットが重要な社会のインフラになってきています。そういう意味で、中央政府、地方自治体における横断的なセキュリティ施策や情報セキュリティをつかさどる常設機関について、また電力、通信などの社会全体の重要インフラにおける情報セキュリティのあり方について提言しました。

ただ、情報セキュリティ基本問題委員会の議論でさらに検討すべき課題がありまして、それは消費者を中心とした一般個人における情報セキュリティやインターネットの活用におけるルール、リテ

ラシー作りについてです。これは、常設の機関を作ってそこにゆだねるという形にしたのですが、この領域は個人の情報発信が爆発的に増加し、流通している状況の中で、政府機関では実態把握さえ難しいと思うので、啓発・教育については当協会が果たす役割が非常に大きいのではないかと思います。

### 従来のIT企業と新興ネット企業の交流の場を提供する役割を担うことが重要

インターネットプレーヤーやIT産業における、ビジネス面での協会の役割はどのようにお考えですか？

先日、総会に初めて出席させていただいたのですが、これまではどちらかというと同業の集まりに出ることが多かったため、異なるカルチャーを感じました。より文化的な、またベンチャー的な雰囲気ですね。そのような異業種交流をして、新しい事業創造の場を提供する役割もあるといいのではないかと思います。

私はよく冗談でいっているのですが、最近はIT産業の雄といわれるのは楽天であったりヤフーであったりして、なかなかNECのようなメーカーの名前はいつてくれない。急成長しているのはインターネットの普及で生まれたさまざまな新しいソフトやサービスであり、またモバイル、ブロードバンド、そしてその先のユビキタス環境を使ったコンテンツです。つまり、インターネット環境を使った事業創造、または消費者を対象としたeライフを提供するようなビジネスですね。物の余っているこの時代に、消費者がブロードバンド常時接続環境の中で本当に欲しいものを時間をかけて探すという場や仕組みを提供したのが楽天やヤフーだと思うのです。そのため、ブロードバンド人口が1000万人を超えてから、売り上げが飛躍的に伸びていますね。



これからさらに、ブロードバンドでモバイルなインターネット環境を利用したさまざまな新しい産業が生まれてくると思っています。そういう産業構造の進展は我々のような立場からしても、非常に魅力的です。楽天にしてもヤフーにしても我々からするとユーザーであり、新サービスの提供に必須のネットワークサービス基盤の構築といった新たな需要が生まれてくるわけですから。つまりITのユーザーが活用によって事業を発展させていくことは、必ずこちらに戻ってくるだろうと思っています。そのような意味で、インターネット協会が従来のIT企業と新興ネット企業の交流や事業創造の場を提供する役割を担うことが重要です。

### 日本のエンジニアの国際活動に対して、企業・大学・政府はより真剣に取り組むべき

国際的な面での役割はいかがでしょうか？

私は以前GBDe( Global Business Dialogue on electronic commerce )の会議に参加していたことがあるのですが、国際的なルール作りや標準化を含め、国際機関との関係は維持していく必要があると思います。特にアジアにおいてインターネット協会の活躍・役割が拡大していくことを期待しています。

一種の覇権争いといえるのかもしれませんが、アジア、特にASEAN+3( アセアンプラススリー )の中で、いかに自国がハブの機能になり、中心になるかを各国は必死に考え、自国のエンジニアが国境を越えて活動することを支援しています。日本のエンジニアが国際的に活躍することに対して、日本の企業も大学も、そして政府もより真剣に真正面から取り組むべきではないかと思っています。

最後に業界各社に向けてメッセージを

お願いします。

初めに申し上げましたが、情報の爆発的な伸びが10年間で1000倍といったレベルで起こり、アクセス可能な情報というのは無尽蔵になってきています。我々人間が直接活用できる限界をはるかに超えた情報がインターネットの普及によって流通しているわけです。そうすると、個人が自由にクリエイトする、体系化されていない情報をどのように活用し、価値



金杉 明信( かなすぎ あきのぶ )

1941年生まれ、慶應義塾大学工学部卒業、カリフォルニア大学ロサンゼルス校経営学部修士課程修了。1967年にNEC(日本電気株式会社)に入社。1995年に取締役支配人に就任し、製造業・流通業マーケットにおけるSI事業を担当、1999年からは常務取締役としてSI事業全般を統括。2000年4月から「NECソリューションズ」のカンパニー社長としてITサービスとコンピュータ事業を統括。2003年3月、現職の代表取締役執行役員社長に就任。

を創造していくかという、情報活用技術や利用技術という領域が生まれます。そこに私は大変なビジネスチャンスがあるのではないかと考えています。

そうした中で、大事なのはルール作りや全体の情報リテラシーを上げていくことへ業界が積極的にかかわることだと思います。

ありがとうございました。

## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社**インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)